

# 会 議 録

## 1 会議名

令和5年度第12回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【諮問事項】

- ・三の輪台いこいの広場の廃止について（公開）
- ・上越斎場の管理の在り方について（公開）

## 3 開催日時

令和6年1月16日（火）午後6時30分から午後8時00分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、  
河野健一、坂井芳美、竹田禎広、田中 実、田村雅春、古澤悦雄、  
増田和昭、丸山岳人、水島正人（欠席者4名）
- ・産業政策課： 笹川課長、廣川副課長
- ・福祉課： 丸田課長、佐藤副課長、渡邊係長
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、  
丸山主任

## 8 発言の内容

### 【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【青山会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：河野委員、坂井委員に依頼

議題【諮問事項】について、事務局から説明をお願いしたい。

#### 【小川係長】

本日は、1月5日付けで市長から2件諮問されたことから、諮問について審議していただきたい。諮問とは、市長が政策判断の参考とするため、区域の住民の生活に及ぼす影響の観点から意見を求めるものである。住民の生活にどのような影響があるかという観点で審議をお願いしたい。

#### 【青山会長】

それでは、【諮問事項】三の輪台いこいの広場の廃止について、産業政策課から説明をお願いしたい。

#### 【産業政策課：笹川課長】

- ・挨拶

昨年11月14日にこの直江津区地域協議会の場をお借りして、この間の経緯、サウンディング調査等の調査の状況、利用実態を踏まえた判断等についてご説明をさせていただいたところである。その後、地元にも順次説明に入らせていただき、具体的には虫生岩戸町内会様、五智6丁目町内会様、さらに五智地区町内会長連絡協議会様と、併せて直江津地区町内会長連絡協議会様に同じタイミングだったかと思うがご説明をさせていただき、差支えなしということでご回答を賜ったところである。そのような地元の皆様のお声を確認させていただく中で、状況が整ったと判断させていただき、諮問をさせていただくものである。

- ・資料No.1「三の輪台いこいの広場の廃止について（諮問）」に基づき説明

#### 【青山会長】

ただいまの諮問について、意見、質問等はあるか。

#### 【古澤委員】

今話があったとおり、直江津地区、五智地区町内会長協議会に説明があった。皆さんからこの案でよろしいという答えをいただいたので、このままでよいのではないかと考えている。

#### 【青山会長】

その他にあるか。

**【磯田副会長】**

二つお聞きしたい。廃止になったときの防犯面の関係で伺いたい。三の輪台の道を上がっていく途中にかなり不法投棄あるのはご存じだと思うが、広場の利用者がいなくなるとなれば、これ幸いとばかりにごみ捨てに行く方が生じる懸念や、青少年の健全育成の面等の配慮については、どのように考えられているか。そうした観点から、進入禁止、通行禁止がどこから指定されるのかということでお聞きしたいのが一点。

それから二点目として、活用の道筋というところがまだよく説明されていない。サウンディング調査等をやりながら調整をされてきているということだが、参考資料1の一番下に、「廃止後は、プロポーザルを行う中で、民間事業者への賃貸や譲渡による跡地の有効活用を図っていく。」と書かれているということは、基本は上越市の資産としては持たない、或いは積極的に上越市が三の輪台を有効活用していくというスタンスではないというように認識してよいのか。

**【産業政策課：笹川課長】**

二点目からお答えさせていただく。活用の道筋としては、プロポーザルを通じて民間提案を募り、提案事業を採点して、より市にとって、市民の皆さんにとって有利な条件を提示していただいた方を採用したい。市の資産としての取扱い、位置付けは、市の資産として売却なのか、貸付なのかというのはご提案の内容次第になるかと思う。売却ということになれば持たないという状況にもなるし、貸付という形であれば所有しつつ地代をいただく。そのような観点でプロポーザルの提案内容を見ていき、資産としての位置付けは、提案内容次第で変わってくると考えている。

また、オープンしているときは、それでも利用者の目があって、不法投棄についても一定の抑止力があつたのではないかと、それが利用されなくなるとひどくなるのではないかとご懸念の部分と、進入路の道路の動線はどこで止めてどこで封鎖するのかというご質問だったかと思う。それぞれ密接に関わる部分だと思う。動線については、国道から入って上越斎場から左に分かれて上がっていく道、上り切った部分までが市道となっている。敷地に入ると構内道路という位置付けで、市道ではない区間がしばらく続き、平らなところを突っ切るとまた市道が再開するという位置付けの道路になっている。周辺の事業者にもご説明に伺ったが、市道と構内道路を一体的にとらえて、通り抜けができるようにしてほしいというお話をいただいた。市道が途中で切れてそこで通行止めになり、また市道が再開するというのは別の面でご不便をおかけするので、構内道路をど

う取り扱うか、市道として位置付けするのか、それとも構内道路のままではあるが、除雪も含めて市道と一体的に管理するような選択肢を持ちながら、市道を所管する道路課と調整を行っている。いずれかの位置付けになるかと思うが、道路としての通行確保をしたいと思っている。道路として通していくので、今の敷地の中に入れてないように封鎖の措置をする所要の予算を、令和6年度の当初予算で市議会で審査していただく段取りで今内部の査定を進んでもらっている。そのように、不法侵入等を抑止する遮断措置などを設けながら、実質的には市道としての道路交通は確保させていただくというように廃止後の機能性として考えている。不法投棄が増えるか増えないかのところは答えになっていないかもしれないが、そこは別の意味で市民の皆様へのごみに対するモラル啓発ということも含めて、生活環境課が担当になるが、環境パトロール等の重点的エリアとして認知してもらいながら進めていただければと思う。

**【青山会長】**

他になければ採決を行う。

諮問第61号三の輪台いこいの広場の廃止について、地域住民の生活に支障なしとする方は挙手を願う。

(全員挙手)

附帯意見等はあるか。

(なしの声)

それでは、支障なしと答申することとする。

以上で、三の輪台いこいの広場の廃止についての審議を終了する。

— 産業政策課、退室 —

**【青山会長】**

次に、【諮問事項】上越斎場の管理の在り方について、福祉課から説明をお願いしたい。

**【福祉課：丸田課長】**

- ・挨拶
- ・資料No.1「上越斎場の管理の在り方について（諮問）」に基づき説明

なお、別紙表中の「住民等」とは、本市の住民基本台帳に記載されていることである。

**【青山会長】**

ただいまの諮問について、意見、質問等はあるか。

**【丸山委員】**

別紙の右側の一番下のところの「火葬される者又は申請者が住民等に該当する場合とする。」というところで、今ほど住民等について補足説明されたが、ここはそのとおりに書かれてはいかがか。もしこのように書いてしまうと、実際住民の方が申請をする場合、多分住民等という言葉を使うと思う。条例ではそこまで詳しく書いてはいけないものなのか。そこまではっきりしているのであれば、そのように書いたほうがいいのではないかと私は思う。住民にとっても、よりわかりやすいのではないか。今日決めなくてもいいのでご検討をお願いしたい。

**【福祉課：丸田課長】**

この表の中でということだが、住民等の定義については、詳しく説明できるように検討したいと思う。

**【青山会長】**

その他にあるか。

**【田村委員】**

現況と諮問内容のところで、祭場が午前9時半から午後6時になっている。つまりこれは開館時間だろうと思うが、右側は午前9時から午後5時までとなった。この1時間はどういう意味でなったのか。

**【福祉課：佐藤副課長】**

現況の「祭場」というところが午後6時までで、それに対して「その他施設」のところは、午後5時までということだが、火葬との一連で部屋を使われるものであり、利用実態として6時まで使うということがないことから、実態を踏まえ今回条例を整理させていただいたところである。

**【青山会長】**

他になければ採決を行う。

諮問62号上越斎場の管理の在り方について、地域住民の生活に支障なしとする方は挙手を願う。

(全員挙手)

附帯意見等はあるか。

(なしの声)

それでは、支障なしと答申することとする。

以上で、上越斎場の管理の在り方についての審議を終了する。

**【青山会長】**

次に、その他について、事務局から説明をお願いしたい。

**【小川係長】**

次回の地域協議会は、前回協議していただいたとおり、2月6日を予定している。内容は、本日予定していた通年観光計画について、担当課から説明いただき、意見交換を行いたい。また、地域独自の予算事業の在り方について、委員間で議論していただきたい。

事務連絡として、会議が終わりましたら、令和6年度地域独自の予算の提案状況について、前回欠席された竹田委員に状況を説明させていただきたいので、少しお時間をいただきたい。

**【青山会長】**

皆さんから何かあるか。

**【田村委員】**

今回の1月1日の能登半島の地震で、上越市における災害の状況、併せて避難の方法も含めて地域協議会として、皆さんの意見を聞いたほうがいいのではないかと思います。第一次避難所へ行くのに大変だったような話もあるし、元日という側面もあるかもしれないが場所が開いていないということもあり、その辺を検証する必要があると思う。なぜこんなことを言うかということ、昨年地域防災の問題をかなり取り上げたが、残念ながら提案に至らなかったのも、その辺も含めて、皆さんでまずこの一点を検討していただきたいと思う。

**【田中実委員】**

田村委員と同じような話になるかと思うが、私は1日に自宅で休んでいたら地震が来た。すぐ避難し、避難場所は直江津中学校だが、先生らしき方が到着されたのが発生から30分から40分ぐらい経ってからで、寒い中、ただ戸を開けられたただけだった。それはそうだと思う。いつ何どき地震が来るかわからない。少しは暖房設備等が備わっているのかと思ったが実際には何もなかったというのが現状である。そんなことをしていると隣の中高一貫校の体育館もようやく電気がつき始めて、避難所になっているんだと初めて思った。もう一度今回の地震に関して、避難等をどのようにしたらいいかについて、再度認識したほうがいいと思う。津波も水族館のそばの何軒か事務所や住宅がある、

ほんの淵までがれきが上がっていた。

#### 【磯田副会長】

今、田村委員、田中委員から発言があった。本来、今日の会議では、通年観光計画について市の担当課から来てもらい議論したいということで予定を組んでいたが、都合により次回に変更になってしまい、せっかく集まっていた皆さん方と議論する場なので、諮問だけではなくて意見交換をさせていただきたいと思っていた。前回協議した進め方の案の中で、議論としては③の地域ぐるみの防災活動の推進について、先ほどの自主的審議事項と通年観光プロジェクト、地域独自の予算事業についての三つをより議論していく、次の世代の人たちに渡していくための意見交換をしながら整理していくことになっている。その中で③と⑥の項目、地域独自の予算と地域ぐるみの防災については一体的に検討することとし、そのうちのひとつとして、今日は特に地域ぐるみの防災という観点から1月1日の震災をそれぞれ振り返りながら、自分のところの避難はどうだったのか、先ほど話があった避難所開設の各町内の状況や、皆様方が体験した状況を共有させていただき、次の提言や提案につなげていければと思っていた。皆様方から一人ずつ、自分のところはこうだった、或いはこういったところが問題だったというようなことをご発言いただきたいと思いますと思うが、そのような形で進めてよいか。

#### 【青山会長】

それでは、古澤委員から順にお願いしたい。

#### 【古澤委員】

5月か6月頃に町内会長や防災士の集まりがある。各小学校区、直江津小学校区、南小学校区、直江津中学校の関連、要は中央1丁目から中央4丁目5丁目は直江津小学校やレインボーセンターが避難所になっている。当日の様子は、津波ということで私どもは自分の町内で精一杯だった。住民の方を全員高いところに呼んで、普段の訓練の賜物だと思うが、皆さんリュックを背負って一番高いところに集まっていた。要援護者も要介護者の方も、皆さん方の協力で声をかけていただき、たまたま帰省中のお客さんがいて助かったが、気が気ではなかった。大神宮という一番高いところに集まる福永町、天王町、荒川町、沖見町の4つは9月の第2週の朝7時から避難訓練をやっている。今回の津波の関係についても、皆様方が必然的に集まったといった感じで、普段の訓練の賜物と思っているが、私共にするとまだまだ訓練どおりにいかない部分は多々ある。後から聞いた話によると、直江津小学校の避難所が開けなかった。避難所開設は、施設

管理者、行政、町内会の三つが核になっていて、行政は震度5になったら集まるという決め事がある。ただ、この1月1日はいろいろな部分で大変なこともあったのではないかと思っている。業者の方はいらっしゃらないという話らしく、近所の鍵を預かっていた方でも当日はいらっしゃらなかったということで、仕方なく窓を開けた。学校も、教頭先生が市外におられて、来るにはだいぶ時間がかかった。正確な時間は言わなかったが、発生してから2時間以上経ってやっと開いたというのが現状である。ここレインボーセンターについては、2町内の町内会長が鍵を持っている。これはよかったと思う。ただ、各部屋の鍵が全部かかっている、入られない状況だったそうである。直江津小学校に避難した方が避難できないのでこちらに来たという方もいた。

南小学校も窓を割って入ったそうである。朝の8時頃までみんな避難していたらしい。コンビニへ行ってもパンなどが売切れの状態非常に厳しかった。私が聞いた中では直江津中学校の対応が一番良くて、毛布などを貸してもらったと言っていた。200人ぐらい集まったが、たまたまその中に防災士の方がいて、この町内はこちらに集まってと指示してもらい、スムーズだった。また、エルマールの方の対応がすごく良かったということで、毛布などを貸してくれたという話である。津波警報が出ている時、消防車両が、とにかく逃げろ、津波が来るから逃げろと回っていた。これは当然である。私共も煽ってしまうといろいろな部分で大変なので、とにかく上へ行くようにと声をかけた。一般の方は、車で市役所や山麓線等へ逃げたが、非常にパニックになったというのが現状である。詳しい話は、2月1日に町内会長さんから集まっていたき、現状等を話しながら次回に繋げていかなければならないということになっている。おおよその情報は入ってきているが、まだ意見が違っている部分はあるが、ただ避難所が機能していなかったというのが現状である。それではいけない。私たちが目指すものは、防災に対しては、市が一本になって対応してもらわないと困るというような要望を挙げていきたいと思っている。昨年、防災の関係で、私たち提案しようとしたことは、軽く見られた。実際、軽く見られたと思う。実際に災害に遭えば、きちんとやることはやらないといけないし、やってもらわなければならない。住民の命がかかっている。安全安心で暮らせるまちづくりが一番大事なことなので、真摯に取り組んでいくように要望していきたいと思っている。

#### 【磯田副会長】

古澤委員、2月1日の町内会長さんたちを集めた会議には、我々委員も参加してもよ



いか。

**【古澤委員】**

次の機会にしてほしい。大事なことなのでやらなければならない。直江津地区全体の問題にしていかないと大変なことになると思う。

**【増田委員】**

1月1日、私は直江津にいなかったので何も言うことはないが、町内会長さんのほうでいろいろな状況を把握しておられるので、町内会長の皆さんと私たちが協力してプッシュしていかなければいけないし、目指すものは目指さなければいけないと思う。

上越市全部で避難所を開設したらしいが、それぞれどこも問題があったと聞いているので、それは検証しなければいけないということと、もう一つは、津波の被害が港町であったが、津波の被害と地震で家が倒れた等の被害は、きちんと区別して対策を出さなければいけないと思う。そこは今後検証していく必要があると思っている。

**【丸山委員】**

私は震災のときに、たまたまエルマールの1階でコーヒーを飲んでいたら揺れに遭った。1回目はまだよかったが、2回目でこれは危ないと思って外に出たら車がポンポン飛び跳ねているような状況だった。地震が収まってからすぐに自宅へ戻り、妻と近所の人たちは逃げるということで、直江津中学校へ避難した。私は実家のある四ッ屋町内に来て、父母を連れてレインボーセンターまで来たが、ここまで来るのもすごく大変だった。天王川のほうで水がすごい勢いで上がってきて、溢れるのではないかと心配したが、ぎりぎりのところで上がらなかった。ここは確か2町内、四ッ屋、旭区が避難対象だったが、住吉町の方もいらっしゃった。避難所が開かなかったからかもしれないが、おそらく一番近い安全な場所に逃げたのではないかなと思う。実家のある町内の方でもここではないところに車で逃げた方もいらっしゃり、それぞれ千差万別でとにかく逃げるしかないということだったと思う。うちは逃げたが、石橋1、2丁目町内会は避難所が直江津中学校か春日中学校であまりにも遠いと聞いた。

**【古澤委員】**

石橋は春日中学校である。

**【丸山委員】**

もう一度、町内ごとに見直したほうがよいのではないかな。健康な方、中学生、高校生、20代ぐらいの人間であれば走って10分で逃げられるかもしれないが、それ以外の方

はなかなか逃げられない。

**【青山会長】**

どうすればいいか。どうしてほしいと思うか。

**【丸山委員】**

その町内にある民間の高いビルを使わせてほしい。例えば、自動車会社や建設会社などの高いところにも避難できるようにしたほうがいいのではと思った。

**【水島委員】**

皆さんのお話を聞かせていただき、災害に対して非常に関心があって、平生からいろいろなことをおやりになっているということがよくわかった。実は、私はあまり関心がなかった。地震の前日は熱海におり翌日は能登へ行こうという話もしていたが、地元の富山へ帰った。疲れていたので天井を向いて寝ていたら、4時ぐらいにガタガタと揺れがきて、そのあとにグラグラと相当大きな揺れがきた。人間というのは不思議なもので、上を見ていると揺れているのだが、このまま落ちて死んでもいいやなどと簡単なことを考えてしまう時期がある。私はそのような感じになった。港町のことが心配だったので、地元へどうしても帰って来なければいけない。ところが、皆さんご存じのとおり8号線で山崩れが起きて通行止めになってしまった。高速道路も動いていない。行きようがない。今なら迂回路がわかるが、その時はわからず、1日、2日ジリジリしながら3日に直江津へ戻った。いろいろなところから、親戚もたくさん上越にあるので、港町は津波があったが大丈夫かと電話かかってきた。確かにメディアで見たら、荒川で相当大きな津波がものすごい勢いで上がっているのも映っていた。2、3日経ってからだと思うが、前の町内会長がメディアに出ていて、いろいろと今の状況をお話になっているのを見て、大変なことだったんだということを感じたところである。上越へ戻ってきて驚いている。建物も傷んでいたし、ガラスも割れたり、会社は中側がぐちゃぐちゃになっていた。

**【田中美佳副会長】**

私は国府2丁目で、避難をしようと近所の方に声かけをした。本当の避難所は国府小学校だが、海に向かうのは怖いと思ったので、近くのこどもの家に行った。それほど人はいなかったが、係の方はいらっしゃった。近所に具合の悪い方がいらっしゃるので、行く前に声かけしなければならなかった。結局、状況がわからなさ過ぎて、津波がどれぐらいなのか、どこまで来るのか、ただ「津波だ、津波だ」と言って皆さん不安がっていた。高台に車が行くのも見えて、逃げなければいけないという思いと、冷静な判断が

なかなかできない中で、歩けない方や具合が悪い方が行かないという判断をされたときに、私たちはどうしたらいいのかわからなかった。

私たちの町内は防災訓練にあまり一生懸命ではないので、いつも思うが集まって消火器で火を消す訓練だけをして、決まった人だけがこどもの家まで歩いて行くという状態である。具合の悪い人たちは出るのは嫌だと言って出ないし、そういうときにはどうしたらいいのかと思うし、今回もそう思った。こどもの家は指定避難所ではなく、緊急避難場所なので、何もなくても仕方がないが、先ほどの丸山委員の話にもあったように、皆さん遠くには行けない。国府小学校まで具合の悪い人たちは歩いては行けないし、車も渋滞していたので、近くのこどもの家に行った。毛布も1枚もないと言われたし、お水もないと言われた。そこにしか行けない人たちもいるので、細かく逃げられるところがあったらよいのではないかと思った。情報もなかったなので、今どうなっているのか、いつまでここで待っていればいいのかも全然わからず、せめてテレビ等の情報があればよかったと思う。ラジオも1つしかなく、係の方たちが聞いているので、中にはなかった。町内会長さんたちが、きちんと把握しているところもあったようだが、私たちのところは具合の悪い方たちの状況等を把握されていたかはわからない。町内によって様々なようだが、全体的に徹底したほうが良いと思った。

#### 【青山会長】

自分のところは直江津のまちでも一番高い、海拔10.8mである。津波情報を見たら3mと出たので、近所の人に、「津波は3m。ここは10.8mあるから大丈夫だ」と言いながら外に出てみたら、みんな我々のところへ避難してきていた。それから、少し落ち着いたので、直江津中学校の避難場所に行ってみたら、町内ごとにグループを組んで、ストーブにあたっていた。私らの町内も町内三役が、東側の世帯に避難するよう声をかけていた。能登半島の能登島と我々の塩浜町町内会は交流がある。最初はテレビを見ていても能登島の情報がなかったが、4日ぐらいに、のとじま水族館のジンベイザメが死んだ等の情報があり、現在は町内会で義援金を1口1,000円で集めている。いずれにしても、自分の避難場所はどこにあるのかをよく知っていないと大騒ぎをする。

「10.8mあるから大丈夫だ。地震の津波は3mなんだから」そういうことをみんなに知らせることも、私は大事だと思う。それと、日頃からハザードマップを見て、自分の避難場所をよく確認しておくことが大事である。それは、自分が今住んでいるところはわかるかもしれないが、どこかへ出かけていけば、また別の話になるわけだから、そ

ういう点も踏まえて日頃からハザードマップを見る必要があるのではないかと思っている。

#### 【磯田副会長】

私は自宅にいた。妻と妻の母と、妻の妹が帰省してきていたので、富岡のあたりに買い物に出かけていた。下の娘が妻の実家で留守番をしていたという状態で揺れた。市内にいる家族は、三か所にいた。情報を見ていると、柏崎40cmの津波という警告が結構出ていたが、上越、直江津はどのぐらいになるのかがわからなかった。後で聞いた話によると、公の潮位計がないということで、後から大学の先生が検証したところによると2mから3mぐらいの津波だったというようなことをおっしゃっていた。私はハザードマップを常に見ていて、家族とタイムラインを作っていて、津波災害のときの動きを決めていて、エルマールに逃げるということにしていた。指定避難所ではないが食料と安全性を考えれば、距離感からしてエルマールだろう。町内の我が組には民間の事業所があり、そこも町内指定になっている。自宅の目の前なので、覗いてみたが誰もいないのでエルマールへ行った。娘は走って私のところまで来て、一緒にエルマールへ逃げたという状況である。津波が直江津に入ってくるのは、関川から遡上してきて天王川、或いはどこかの堤防を決壊して入ってくるというルートしかない。直江津の津の先の上から超えてくることはありえないし、そう考えていくと、関川から回ってくる時間20分。地震があつてからここまで来るのに20分ぐらい。それからぐっと上がってくるということを見ると、30分以内に何とかしなければいけない。そうすると、直江津の人たちはもう垂直避難以外検討の余地はない。どこかに車で逃げようとしても渋滞にはまってしまうから、やはりそういうことを刷り込んでおく、或いは家族と子供たちとタイムラインを常に作るという、まさに地域防災の話で推進しようとしていたことの一つである。そういうことがしっかりと家族の中で共有できていれば、それほど慌てずに済む。それから地形等を理解していれば、選択肢を狭めることができるということも思った。いずれにしても、港町のあの映像を見ると、直江津にも来るのだということも再認識した。

#### 【河野委員】

地震のときは、私はちょうど仕事で、娘も仕事で水族館にいた。妻が家にいて、自分が家に帰ったのは地震が起きて40分後ぐらいだが、車の渋滞がすごくてなかなか着けなかった。家は国府3丁目なので、津波が来ても関川から回ってくるから、ここには影

響はないだろうということで、ずっと自宅にいた。車で逃げても、あの渋滞では間に合わないし、娘もかえって来ていなかった。近くの高いところといえば、春日山ぐらいいかないと思う。そちらにも結構車が行っていたようである。

**【青山会長】**

中門前が高い。

**【河野委員】**

中門前にも上がっていた。

**【坂井委員】**

その日は、仕事でエルマールにいた。お客様もいらして、お店自体はディスプレイが落ちただけでほぼ被害はなかった。まずお客様が帰った。建物自体は震度7まで大丈夫という元々耐震はとてもいい建物なので、3回ぐらい揺れたが、3回目のときは屋上に避難している方もいた。私はその3回目のときには外にいたが、お客様の中にはパニック状態になっている方がいらっしゃり、車が揺れたので、「車が出ちゃう、出ちゃう」と言うので、「いや車は出ませんよ。屋上に避難されたらどうですか」と言ったが、「この建物自体はもう古いから怖い」と言われ、気をつけてお帰りいただいた。私自身は、自宅が心配だったので歩いて自宅まで行ったが、五智地区なので家の中はほぼ大丈夫だった。また歩いてエルマールまで戻ったときには、結構屋上に避難している方もいらっしゃった。無印さんがすごくきちんと対応されていて、毛布や食料も配られていて、「大丈夫ですよ」としっかりと避難誘導をされていた。

夫はお客様がまだいらっしゃるので一緒に屋上まで避難して残り、私は車をエルマールに置いていたので、ペットが心配で車でもう一回家まで戻った。両隣の家が真っ暗で避難したことがわかったので、私も避難しようとペットを車に乗せて春日山方面に山麓線で行った。春日山町あたりまで行くと少し渋滞が始まっていたが、それまでは結構スムーズに行けた。市民プラザだとトイレ等もあるので、市民プラザまで行ったが、あまり慌てる様子がなかったので、とりあえずそこで少し様子を見ていた。食糧を確保しなければいけないと思いコンビニに行ったが、パンやおにぎりはほとんどなかったので、飲み物と少し甘いものだけを買って市民プラザへ戻り午後8時ぐらいに家に戻った。

津波が何mくるのか知りたくて、ずっとスマホを見ていたが直江津が出てこなかった。なぜ直江津が出てこないのかと不思議に思っていた。測るものがなかったということ、新潟県内でも直江津に集中的に津波が来ていたということの後で聞き、早急に津波の測

れるものはつけていただきたいと思った。

20年近く前に町内の避難訓練に参加したときに、国府小学校が避難所だったが、市の方に感想を聞かれたので、「津波が来たときに海に向かって逃げるのはすごく怖い。避難経路もブロック塀のある細い道を通って行くのもとても怖い。」と感想を言ったが、それに対しては、「わかりました」と言うだけで終わったと思う。実際にブロック塀がすごく壊れた。避難経路が今どうなっているかは確認していないが、昔の避難経路と一緒にあれば、逃げ道がなくなったりすることもあるのではないかと思う。

#### 【竹田委員】

私は、港町2丁目だが、当日は町内を歩いて出かけていた。揺れを感じてすぐに家に戻った。大きさはわからないがすぐに津波の情報が入ったので、少し考えたが港町は避難所まで行くのも怖い。古城小学校跡と佐渡汽船で基本的に海に向かって避難するので、妻と犬ととりあえず家の2階に避難した。妻が非常用の準備をするのが好きな人で状況を聞くと、水、電気、水道が全部止まっても1週間から10日は大丈夫だということで、とりあえず自宅にすることにした。少し落ち着いてから町内の方のお話など聞いたところによると、避難所の窓を割って入っていいということを知らない人が多い。直江津地域ではなく、知り合いから聞いた他の地域の話では、一度避難所に集まったが、入れないのでみんなまた別の場所に移動したということで、その辺も周知が必要ではないかと思った。先ほど話に出た町内の方は、川の水門の管理をしていらっしゃり、津波が来るという状況のときに川に向かって行き、実際に被害を受けてしまった。私は詳しい話を知らないし、水門の管理が実際にどういう作業をしているのかはわからないが、基本的に担当しているのが高齢の方が多く、どうしても、本当にしなければいけない作業があるのか、もう一度検討していただいたほうがいいのではないかと思った。

#### 【田中実委員】

先ほどもお話したが、当日私は自宅にいて、すぐ向かいが避難所で、避難されている方が大勢おられたので、今ある避難マップを見直さされたほうがいいのではないかと思う。

#### 【田村委員】

私は、年賀欠礼で誰も来ないと判断して家にいなかった。ちょうど買い物に出ているので、家へすぐ戻らなければいけないと思った。はねうまラインの高架橋のところに大勢人が集まっていた。町内はどのように行動しているかという、うちの町内は年1回

必ず訓練をする。2年に1回くらいスライドを見ながらの学習会をする。自分が元気なときは、「元気旗（げんきつき）」というA4の札のようなものを玄関に貼って、町内会の役員が回っても分かるようにしている。

基本的には春日中学校が避難所で、一度避難所まで行動してみたが、車椅子の人も含めて、町内会館から20分以上かかる。横に農業用水の川もあり、これではとても無理だということになり、うちは海拔3mなので垂直避難ということにしている。

先ほど皆さんが言ったとおり、海に潮位計がないことが非常に難点だったと思う。テレビでは柏崎や他の地域の潮位は出てくるのに、どうして直江津は出てこないのかと、それが非常に今回不手際だったのではないかと思った。それで逃げなかった人が結構いた。私も垂直避難ということで2階へ上がった。町内では、民間の事業所と一応契約というか、非常時のときに行くようになっている。

あとは、放送について、ラジオは聞こえるが、屋外放送は声が割れてしまってよく聞こえなかった。みんな外へ出て行くので、これは難点だったと思う。

#### 【青山会長】

事務局の皆さんはいかがだったか。

#### 【佐藤所長】

地震が起きた直後職員は連絡を取り合い、まず身の安全を確保してからレインボーセンターに駆け付けた。夕方5時ぐらいだったが、既にレインボーセンターには約300人程度が、2階、3階に避難されていた。夜10時過ぎになり、避難者の皆さんが「自宅に戻って、お風呂入って、夕飯食べて、また何かあったら戻って来よう」という状況になったと記憶している。

#### 【青山会長】

自分もこの際だから、防災袋を点検しようということで、期限切れの乾パンの封を開けて食べたが、乾パンは必要か。自分だけ食べるわけにはいかないと思う。それと、電池は袋に入っているから大丈夫だろうと勝手な判断をしたが、電池とラジオが別袋に入っていた。皆さんもこの際、防災袋の点検が必要ではないかと思う。機会があるときにまたこの話を持ち出して、いろいろな話を聞かせていただきたいと思う。

#### 【水島委員】

皆さんの話を聞かせていただいて非常に参考になった。一つだけお聞きしたいのは、先ほど田村委員がお話しされた、自分の今いる場所、そして自分が災害に遭っていない

ことを証明するために、家の前に札を貼るというのは、市内で統一されているのか。

【田村委員】

元気に旗と書き「げんきつき」と読む。町内独自のものである。

【水島委員】

富山にいるときに、揺れている中スピーカーで何を言っているかわからなかったが、とにかく津波が来るから避難しなさいという案内があった。それで車で避難した。行ってみると、真っ暗なので誰が来ているのか、誰が何をしているのか全然わからなかった。その後、その区長さんにお会いすることができたので、どのように把握をされているのか聞いたら、現実的には無理だとおっしゃった。しかし、今田村委員のお話を聞いて、いい方法なのではないかと思った。

【田村委員】

町内の役員や防災委員が楽である。一応それぞれのところに集合することになっているが、集合してない方はわからない。だから玄関先か、玄関の木などにぶら下げる。それで、この人は大丈夫だと安否確認できる。

【水島委員】

いい方法だと思う。あればいいと思う。

【古澤委員】

うちの町内は16組まであり、一組が8から10世帯ぐらいある。なので、訓練のときは1組から16組まで全部並ぶことになっている。今回も1組から全部並んで来ていただいて、組長さんから点呼を取ってもらった。中には体の弱い方もいらっしゃる把握しているので、どうしたのかと聞くと、その方はとても足が悪くて出てこられないが無事であるとのことだった。100歳の方もいらっしゃる。その方は親戚の方から車の中にお聞きした。町内全体的なものにしてしまうと、なかなか点呼が取れないが、各組ごとに組長さんがおり、いなければ代理の方から出てもらってまとめている。安否がわからない場合は、青年会の人に回ってもらうように頼んでいる。大きい町内は大変だと思うが、小さい範囲内で行動をしていくとできる。ただ、今回の場合は津波があったので大変だった。避難所と避難場所があるが、避難所は生活できなくなるとか、地震がまた来るから怖いというときに来る。だから津波になったら、とにかく高いところへ逃げる。それが通説である。ただ、それを知らない方もいらっしゃるなので、防災士会もあるし、町内会でもそういったものを改めてきちんと周知しながらやっていく。とにか



く災害があったら自分の身を守る。その次に共助。お互いに助け合う。これが一番大事なので、そこを身をもって皆さんからやっていただく、改めて地域協議会もいろいろな部分で周知していくとよいのではないかと考えている。

**【青山会長】**

いろいろ皆さんあったかと思うが、参考にしながら改めるところは改めて、前に進むところは進んでいただきたいと思っている。

他にないか。

**【増田委員】**

地域協議会委員の改選があるが、新聞によるとホームページに動画を作成したとあった。案内は市で統一したチラシを配るのか。それとも、直江津は直江津のチラシを作って、委員を応募するという周知をするのか。

**【佐藤所長】**

全市統一のチラシである。

**【増田委員】**

私たちの仲間の話の中では、統一チラシではなかなか地域協議会の委員になってほしいという趣旨が伝わりにくいので、できることなら直江津版を付け加えて、ぜひ応募してくださいというようなことができないかと考えている。それも後で相談させてもらいたい。そういうことができるのであれば、私たちの思いをそのチラシに載せて、直江津の皆さんに知ってもらおうということも必要なのではないかと思います。

**【田村委員】**

前回、労災病院の閉院の問題で課題提起があった。それを自主審議事項にするということになったと思うが、あと任期満了まで何回もないが、いつからやるのか等皆さんで次回ぜひ検討していただきたいと思う。

**【磯田副会長】**

認識の確認だが、自主的審議事項の直江津まちづくり構想の一つの問題点として、抽出はしているが、具体的にそれを突っ込んで議論するかということは、まだ全体会の中では決まっていないと思う。

**【田村委員】**

前回、私と丸山委員と古澤委員が発言し、市の説明を聞きたいと言った記憶がある。

**【磯田副会長】**

以前A3で作った表に網羅されていることは、これから議論を深めていかなきゃいけない問題としてまとめており、ただ、改選となる4月までに議論を突っ込むことはしないというスタンスで、新たな委員の人たちに、引き継いでいくという整理になっているはずである。

**【田村委員】**

議論をしないという解釈は少し違うと思う。

**【田中美佳副会長】**

その中でも、担当課に説明にきてもらうという話は、前回出ていた。

**【磯田副会長】**

それを、改選までの間に入れたいということによいか。

**【田村委員】**

前回発言したので、どうするのかを聞いている。当面は、市の方針を聞くのか、その辺も含めて。

**【磯田副会長】**

では、この件について、少し皆さんで協議したいと思う。

**【田村委員】**

レインボーセンターの説明会に行った。東雲町の会館でもあったが私は行かなかった。レインボーセンターのときは圧倒的に直江津の人が批判的だった。県の方針に対して、我々が黙っていていいのかということを知りたい。少なくとも説明を受ければ、話し合いの取っかかりができるのではと思っている。

**【丸山委員】**

私も前回、労災病院の話をしたが、去年レインボーセンターの説明会でも誰かが言われていたが、報道発表する前にまずは市民に知らせてほしいということであったにもかかわらず、また報道が先になって、新聞を見て知ったとか、ホームページを見て知ったとかということについて、一度、担当部局から来ていただいて、今の状況をきちんと説明してほしい。それを受けて、次は来年になると思うが、自主的審議事項にするのかわからないが、この問題は直江津の住民はとても関心を持っているので、この協議会として、いろいろと議論していくべき課題だと思っている。まずは、今年度中に説明をしっかりと聞きたいという思いである。

**【水島委員】**

私は、前回の会議録確認委員であり、今丸山委員が言われていたことは間違いない。この協議会の場でも閉院することになった経緯や理由等をしっかりと市の担当局から話を聞きたいと発言されているので、それは今後どうされるのか、皆さんで議論していただきたい。

**【青山会長】**

担当部局から来ていただく件について、事務局いかがか。

**【佐藤所長】**

調整させていただきたいと思う。

**【青山会長】**

そのように進めさせていただく。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。